

## 普及活動情勢報告（令和3年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### コロナ禍での視察研修（法人化に向けた取組） ～集落営農リモート視察研修の開催～



JA高知県四万十支所会場



幡多あぐりっこ会場

普及所は幡多農業振興センター農業改良普及課に協力を頂き、1月27日、JA高知県四万十支所会場と幡多あぐりっこ会場をインターネット回線で繋ぎ、リモート視察研修を開催しました。両会場合わせて18名が参加しました。

ほ場整備事業において集積率70%を目標にしている（農）入田村と、農家の高齢化や後継者不足等の地域の実情より発足した（農）田野川甲営農組合の2組織について四万十町の集落営農2組織が視察し、それぞれの視察先から、法人化への経緯や組織運営、経営状況について説明を受けました。

参加者からは、「給与の支払いはどうしているか？」や「実際に現地に視察に行きたい。」など積極的な意見が出されました。

普及所は今後も関係機関と連携して、集落営農組織の法人化に向けた取組について支援していきます。

### 土づくりを知ろう！分かつよう！実践しよう！ ～農業基礎講座（土づくり）～



土壌分析ワークショップの様子

普及所は1月22日、新規就農者（14名）を対象に、土壌の基礎知識に関する講義とワークショップを行いました。

講義では「植物と土の関係」や「植物にとって良い土の条件」「肥料について」など、土壌肥料の基礎知識について説明し、ワークショップでは、普及指導員指導のもと、各生産者が自身の圃場の土壌分析（pH・EC）を行いました。

参加者からは「作物には土づくりが非常に重要な事、再認識しました」や「自分の土の状態が分かって良かった」などの意見が出されました。

普及所は今後も、講習会の実施などを通じ、新規就農者を支援していきます。

### 水耕セリを使った新メニュー提供に向けて ～水耕セリほ場視察対応～



料理長から生産者へのインタビューの様子

2月5日、老舗ホテル関係者からの要請を受け、水耕セリ生産者（1戸）の視察対応を行いました。

視察ではセリの生育段階の見学や、栽培へのこだわり等のインタビューが行われました。普及所からは、対象農家が誘蛾灯やトラップを導入し、農薬使用量の低減に取り組んでいる旨を紹介しました。

老舗ホテルでは3月初旬より新たな宿泊プランを計画しており、消費者に水耕セリをPRするチラシを作成する予定です。

普及所は今後も水耕セリの消費拡大に向けた産地のPRを支援していきます。

次作の栽培に向けて ～シシトウ栽培講習会の開催～



栽培講習会の様子

2月18、19日、JA高知県幡多地区十和支所でシシトウ部会の栽培講習会が開催され、生産者53名が参加しました。

普及所からは、昨年実施した品種比較試験の結果と前作の栽培時の反省点であった定植時の管理について説明しました。

生産者からは「新品種は実が細く感じる。」との声や「新品種はパックに詰める本数が多くなるだろうか？」などの質問が出されました。

普及所は今後もJAと連携して、シシトウの安定生産に向けて取り組んでいきます。

スマート農業実証プロジェクト 2年間の成果 ～令和2年度第3回スマート農業推進会議～



実証成果を検討する  
コンソーシアムの構成員

2月5日、四万十町水田作スマート農業実証コンソーシアムによる推進会議が開催され、令和元年度から2年度の成果を検討しました。

普及所は、進行管理役として実証の計画・進捗管理・実践支援を担当し、実証経営体の営農支援センター四万十(株)とともに成果を報告しました。スマート農機の導入により水稻及び大豆栽培にかかる労働時間を削減し、外部委託費の削減につなげました。また、作業の軽労化やオペレーターの育成も進みました。

普及所は、今後も実証経営体と協力して、中山間地域へのスマート農業の推進を図っていきます。

四万十の栗の剪定技術アップ！ ～大正・十和地区栗剪定講習会の開催～



剪定講習会の様子

2月14日、JA高知県幡多地区十和支所で栗部会の剪定講習会が開催され、生産者21名が参加しました。

普及所からは、品種に応じた結果母枝数による整枝・剪定技術や、低樹高化の方法について指導を行いました。

生産者からは「結果母枝数や長さは？」「カットバックの方位と手順は？」「剪定後の肥培管理は？」などの多くの質問が出されました。

普及所は今後もJAと連携して、栗の品質向上と安定生産に向けて取り組んでいきます。

ユズの低樹高化に向けて！

～十和ユズ部会剪定講習会の開催～



剪定講習会の様子

2月19日、JA高知県幡多地区十和支所でユズ部会の剪定講習会が開催され、生産者16名が参加しました。

普及所からは、間引き剪定、切り返し剪定などの基本技術や、良好な結果母枝の状態や樹形に応じた低樹高化の方法について指導を行いました。

生産者からは「花芽の確認は？」「間引く枝の判断は？」「見本樹を設置してほしい？」などの多くの質問が出されました。

普及所は今後もJAと連携して、ユズの剪定技術の向上と青果率向上に向けて取り組んでいきます。

農福連携による障害者雇用を

～農福連携推進フォーラムを開催～



講演する浜田好清氏（中央）

2月9日、四万十町農業環境改善センターで農福連携推進フォーラムを開催し、普及所は事務局として開催から当日の運営を担いました。

四万十町農福連携推進協議会の浜田好清会長が「一般社団法人四万十農産における農福連携の取り組み」として影野地区を中心とした集落営農法人の活動について講演。影野地区や周辺の地域から障害者や引きこもりの方も含めて雇用を増やし、地域と共に経営発展を目指したいと理念を語りました。

また、参集した関係機関や、就労継続支援事業所は、四万十町における今後の農福連携のあり方を意見交換しました。

普及所はこれからも、四万十町農福連携推進協議会と協力し、四万十町の農福の連携を支援していきます。